

平成 23 年度 第 1 回
スマートウエルネス三条推進会議（知的支援基盤）開催概要

日 時：平成 23 年 9 月 10 日(土) 13:30～15:50 会議
15:50～17:15 鍛冶道場及び三条小学校区内視察
会 場：三条鍛冶道場研修室（三条市元町 11-53）

出席者：久野委員（議長）、羽藤委員、川中委員、谷口委員、松原委員 TWR（安藤）
國定市長、福祉課（駒形、佐藤、片野）、高齢介護課（西澤、小林）
健康づくり課（波多野、栗林、野口、麦倉、佐藤）営業戦略室（永井） 計 18 名

資 料：別添のとおり

概 要

【自己紹介】

・事務局

ようこそ三条市にお越しいただき、ありがとうございます。事務局を担当する福祉課の駒形と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

開催に当たり、議長の選出をお願いしたいと思ひますが、事務局といたしましては、久野委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか？（←異議なし）

ご異議がありませんので、久野委員から議長をお願いいたします。

・久野議長

筑波大学の久野です。本日初対面という方もおられると思ひますが、目的や志を同じくする皆様と思ひますので、よろしくお願ひいたします。

では、自己紹介から順にお願ひします。

・川中委員

新潟医療福祉大学の川中です。本学は開学から 11 年目。3 学部 8 学科で構成する。現在は健康栄養学科で管理栄養士の養成をしているが、久野先生の後輩で、そのご縁で声をかけていただいた。専門は運動で、糖尿病予防のためには、どのような運動の仕組みが良いのか、といったこと等を研究している。皆さんと少し立ち位置が違うが、本学は、健康スポーツ学科もあり、運動関係の新進気鋭の先生も多くいるので連携を深めていきたい。

・松原委員

国際開発コンサルタツの松原です。40 年以上、都市計画に携わっている。都市交通主体で、特にバリアフリー、UD といった福祉的な公共交通に取り組んでいたが、久野先生と知り合つて、そうなる前、健康寿命をいかに長くするのが大事という話を聞いて、目から鱗だった。自身にも関わることなので、良いまちづくりのために協力したい。

・谷口委員

筑波大学の谷口です。新潟でのシンポジウムで久野先生とお会いし、医学の立場から、私と同じ事を考えておられたことに驚いた。私は都市交通が専門で、車から公共交通へのシフトについて、コミュニケーション主体でやってきたが、環境やコストや交通事故の間

題からコミュニケーションしていると、例えば環境なら、全て電気自動車に変えれば良いのかというと、そういうことではない。ほかに中心市街地の問題だってある。その中でも健康というアピールがすごく心に届くように思っている。小学校の授業でも健康の問題を追加していくとその親にも届いていく。健康主体のまちづくりは重要であると考えている。

・羽藤委員

東京大学の羽藤です。ウォーキングマップを見させていただいた。今、健康医療福祉都市ということで、松山、神戸で都市空間の整備に関わっている。三条市の取り組みが、むしろ参考になると思っていたところ。

人が歩き出しやすくなるまちというのは、単に道路のしつらえ以上に、街路上のプログラム、施設やその中でのアクティビティや、どういう人がそこに集うのか、そしてどう連鎖していくのか、ということを経済社会という現実を踏まえたうえで、どのように創り上げていくかを考えている。昨年、キューバのハバナ（社会主義で医療に力を入れている）で、街路の改良に高齢者施設や病院、福祉施設等を組み合わせるといった事例を見てきた。三条市でも多様な公共交通、ウォーキング、血糖の測定など、立体的に取り組んでいるようなので、ぜひ議論に参加させてもらい、皆さんと一緒にまちづくりを考えていきたい。

・國定市長

農業県の新潟にあって、三条市は、地元産の米で完全米飯給食を実現している。このことは漫画から朝日新聞の社説まで、多くのメディアに取り上げられ、知名度としてもかなり拡がりつつある。一方で 三条市は、東京の大田区や大阪の東大阪市とまちの香りが似ていて、いわゆるものづくりのまち、金属加工産業のまちである。この三条鍛冶道場は、その技術の原点がわかる施設である。三重県の伊勢神宮で 20 年に 1 度行う式年遷宮（技術伝承）の際に使用する大量の和釘を生産できるのは三条市だけ。一昨年から準備が始まっていて、大きな受注であり、これで鍛冶職人が次の世代までつながるようになっている。

また、先般、7 月 29 日から 30 日にかけての水害により、大きな被害を受けており、未だ復旧、復興段階である。会議後のまち歩きでも、その一端は垣間見ていただけたと思う。

なお、次回以降は、これからの有意義なディスカッションの内容をマスコミから取材していただき、スマートウェルネスを推進している状況を市民にもお伝えしたいと考えているのでよろしくお願いしたい。

【SW 三条の考え方（國定市長）】

＊詳細は別添資料のとおり

（要旨のみ）

- ・委員の皆様方（知的支援基盤）にお願いしたいこと（目的、任務など）をご説明したい。
- ・健康のまちづくりは究極の目的であるが、狭義の健康施策だけでなく、様々な取り組みの組み合わせが、ストレスなく個人の健康につながり、それが面としてのまちづくりにつながるのではないかと考えている。
- ・ご指導いただきたいポイントは、SWC の方向感を踏まえて、具体的に何をどうするのか、そのことでどういう変化がおこったか、健康度、満足度、幸福度といった評価指標をどう考えればいいのか、それらのすべてをこの知的支援基盤に丸投げしたい。
- ・（従来ありがちなアリバイづくりの会合を重ねるのではなく）この組織で施策の体系化や評価指標の設定などについて具体的にお知恵を借り、それらの実践部隊として私たちがいる、という認識である。
- ・現在の問題認識として、小学校区ごとの高齢化率の中で突出しているのが、このまちな

かにある三条小学校区（37.5％）であるということ。

- ・健康寿命を長くする取組は、健康運動教室をはじめ、狭義の施策として取り組んでいる。
- ・狭義の施策は、参加者が頭打ち、伸び悩み、受益者は健康意識の高い人に限られる。
- ・しかし、全市一斉に変えることは困難。まずは三条小学校区をモデルにしていきたい。
- ・このモデルの中で、皆様からお知恵をお借りし、評価軸を持って実践し、変化を見たい。
- ・このエリアは中心市街地であり、ここが結果として活性化すればありがたい。
- ・歩行空間、環境の整備（ハード&ソフト）により⇒歩行者が増加⇒店舗が増加⇒賑わいが増加⇒店舗が増加⇒歩行者が増加⇒賑わいが増加する。点が線、面になって、結果、昭和のようなスタイルで、歩いて生活ができて、楽しみもある、そして最終的に健康面にプラスにはたらく、という仮説だけを立てている。
- ・現在、マルシェは月1回開催しており、功を奏したといえば、空き店舗への出店が2件⇒6件に増加している点。
- ・スケジュール的には25年度までの3年間。23年度は（短くはなったが）知的支援基盤の中で体系や手法をご議論いただき、その結果を受けてハード、ソフトの両面で予算化しながら、24年、25年度で実践、評価、改善という形で進めていきたい。評価指標の構築について、三条市の電算システムは制度ごとに縦割りなので、横につながるシステムが必要であれば、本年度から併せて構築しながら評価と実践を行っていきたい。

（質疑）

・松原委員

デマンドバスの効果は？

・國定市長

利用者数は、本格運行前で15人/日、本格運行後は300人/日くらい。経費は全体で約2億4千万、うち市の負担は約8,000万。

・羽藤委員

駅に着いてから30分位散策をした。やはり、人が歩いていない。今回の取り組みで人が都心（まちなか）に戻るような（都心居住）プログラムや、住宅のマスタープランとの連動を考えているのか？

・國定市長

今はないが、今回の議論で住宅施策まで行くべきといった提案あれば考えたい。ただ、現実的には、旧三条区域は、大変コンパクトなので、他の都市が抱えるようなドーナツ化とは様相が違うと思っている。

・羽藤委員

歩いてみると非常に味わいがある良いまち。都市の格としては、人口規模より、もう少し上ではないか。こういうまちで暮らすことの価値は高いと思う。そう考えると、この三条小学校区の人口規模を上げていくようなことも中長期にはあり得るのかなと感じる。そのためにインフラの議論も少しするのかなと思っている。

地位（じぐらい）、土地の位が高いと感じる。歴史的、文化的な蓄積がある。歩くとわかる。そのポテンシャルは住んでみても感じるのではないか。

・國定市長

地価に関して言えば、他の都市に比べると、高止まりしている。

・谷口委員

この校区の人口は減っているのか？

・事務局

大きくは減ってはいないと思われる。（単身世帯は増加傾向にある。）

・久野議長

今、住んでいる方々へのアプローチのほかに、次世代に向けた施策の観点も出てくる

かもしれない。また、その場合は、車ではなく、公共交通にもっと目を向けるということでの制度的な課題も出てくるだろう。

【SWCの概要説明（久野議長）】

（要旨のみ）

- ・自動車依存の脱却が大きなテーマ。
- ・健康プログラムをちゃんと行えば12歳くらいは若返る。
- ・医療費も10万円／年くらいは下がる。（国保財政にも効果あり）
- ・ただし、これは、ヘルスリテラシーの高い人の効果（全体の3割）
- ・残りの7割の人をどうしたらいいのか、それを考えるのがSWCの発想。
- ・ヘルスリテラシーとは、知っているというレベルから、実際に一歩踏み出すことができる知識、能力のこと。（1日1万歩が良いとわかっているけど、多くの人はできてない。）この部分がスマートと名付けた意図である。
- ・三条と見附では、全体の半数は、運動の意思が（今後も含めて）ないという状況。そういう人たちは、健康に関する情報収集もしていない。もしかすると情報自体、届いていない可能性もある。
- ・知らないうちに動かされてしまうまちが創れないか。そこから、関心を持ってもらい、情報を収集するようになるという発想も必要ではないか。
- ・東京、大阪、愛知のうち、自動車の依存度が高い愛知の糖尿病患者数が多い。
- ・公共交通のアクセス、歩道や自転車道、美的景観、ソーシャルキャピタル（地域の連帯感）歩ける商業空間、商店街の活性化などが、すべて健康に関係する。
- ・特に公共交通のあり方の影響が大きい。
- ・大都市は自動車通勤が圧倒的に少ない。地方は日常の移動を車に依存している。
- ・これを踏まえて地方都市はどうしたら歩くようになるのか、これを皆さんと議論していきたい。
- ・もう1つはソーシャルキャピタル。ソーシャルキャピタルの高さと健康（幸）度は比例している。（偶然の出会いの積み重ね）
- ・SWCは住むと元気でいられるまちを目指す。弱ってからどうするかではなく、弱らないような仕組みをつくる。
- ・キーワードは自律。（便利からのシフト）行動様式の変容。時間はかかる。まちの再構成、社会制度の変革、住民のコンセンサスも必要。
- ・社会技術の開発。各分野の知識、特性、経験を導入した新しい問題解決型イノベーション。＝この知的支援基盤が取り組むこと。
- ・通過交通を抑えること。人が佇める場所をつくること。（今の仮設住宅地には、外に集まれる場所がない。コミュニティと言いながら、ベンチ1つない。）

（質疑）

・羽藤委員

かなり思い切ったことを仕掛けようとされているのか。自動車の流入規制など、衝撃的な話もあるが。

・國定市長

衝撃的ではある。現実的には本町通りは交通量が多い。バス路線でもあり完全に止めるのは難しい。10月に本町通りでマルシェをやるが、1日だけでも相当大変。ただし、そこ以外（枝道、小路）は、殆ど車が通らない。

・羽藤委員

空間のしつらえとして考えると、エリアに入れないようにと思いがちだが、メインに対して、盲腸みたいな道を公園のように使うこともできる。オランダの生活の庭のように。緑や花を植えてコミュニケーションの場にする。車のための道路という意識を変える。そうした場所がいくつか連鎖する。久野先生の考えをもとに、カスタマイズして三条独自のものに踏み込む。

・國定市長

ヨーロッパは広場の文化で日本は道の文化。チャレンジしてみたい気持ちはある。今も2.7の定期市など、その土壌はある。

・羽藤委員

歩いていると店舗があり、そこでご近所同士の会話がある様子。建築も確認してみて、1階のスペースを使って（コミュニケーションの）場として使うと、おもしろい回遊空間ができる。

・國定市長

今の話は、大いにできる要素がある。関係課と予算化も考えていたところ。

・羽藤委員

建築が良さそう。住んでよし、訪れてよしのイメージができそう。

・國定市長

先般、中心市街地歴史的建造物調査を実施し、その報告書があるので、後日配布させていただく。

・久野議長

私は比較的高めのボールを投げている。最終的に中途半端な取組は意味が無いので、どのあたりをチャレンジしていくか。私は歩くことが健幸に良いと言っているが、そうした場所を造ることは素人であり、皆さんの知恵をお借りして具体化していきたい。

・松原委員

1つは、マルシェや2.7市など、日常的に訪れるような場づくりが必要。もう1つは、車でアクセスして、まちなかに入ると車は邪魔だが、やはり本町通りは消せないで、1歩入った路地や小さい空間の組み立て、組み合わせで賑わいを創ること。つい歩いてしまった、歩きたいと思う空間づくりが大事。

・國定市長

本寺小路などは、相当に小路が入り組んでいる。交通量は少ない。集える場として考えることはできると思っている。

・久野議長

特区の関係で、交通規制については、警察庁も生活道路という考え方を持っていて、基本的にウェルカムである。積極的な自治体とはタッグを組んでモデル的に、という話もある。現場は大変だという認識もあり、実際に具体の進め方についても今後考えていきたいというコメントだった。

・國定市長

歩行者天国をしようとする、地元警察の生活安全課は○だが、交通課が×。警察内部での縦割りの弊害。

【SW 三条のグランドデザイン策定のための現状調査について（久野議長）】

*詳細は別添資料のとおり
(要旨のみ)

・調査規模（人数）は再考。

- ・歩かない要因、どうしたら歩いてもらえるかなどを調査したい。因果関係から実態を見える化したい。
- ・結果、住民をタイプ別に類型化したい。(2～3タイプ)
- ・類型別に異なる仕掛けをしていきたい。
- ・その結果、類型別に変化があったかどうか、データをとってみていきたい。
- ・結果を分析、評価し、必要な改善を加えていく。(施策体系、手法の見直しなど)
- ・総合特区に認定されれば、そこから調査費が投入できる可能性もある。(例：高性能歩数計の配布等)
- ・個別の調査項目については、各委員からこの資料だけに関わらず、別の情報やご意見があれば随時 TWR にいただきたい。
- ・日程的には、降雪前に実施したほうが良い。(10月後半から11月中旬頃)

(質疑)

- ・谷口委員
対象が 65 歳以上だが、区別は必要か。(弱らせないことを目指すなら、小学生から入れても良いくらいではないか。)
- ・久野議長
全年齢対象で良い。類型化するには 1,000 人～2,000 人くらい。別途オプション調査の議論はあると思っている。
- ・國定市長
一応、個別訪問調査も念頭においている。
- ・谷口委員
実施期間 1 年間とは？
- ・久野議長
これも現時点では気にしないでいただきたい。(全体としては 25 年度までの 3 年間) 万歩計を付ける期間に関して言えば、変化をみるためには、長い期間付け続けた方が良いが、ただ、付けている方のデータだけでは偏ってしまう。健康格差、リテラシーレベルの問題があり、少し慎重に考えないといけない。スケジュール的には市長の PP 資料に沿った流れでいきたい。
- ・松原委員
冬の降雪はどの位？
- ・國定市長
ひざ位、50cm～60cm で 3 ヶ月間程度。ただし、三条小学校区は殆ど消雪パイプが整備されているのでそれほど大きな支障はないと思う。
- ・羽藤委員
生活習慣で、冬とそれ以外でパターンが大きく異なるのか。
- ・事務局
外出が億劫になる傾向はあると思う。活動量は減る。
- ・羽藤委員
個人的にトライアスロンをやっている。年間 150 回は飛行機に乗る生活で、靴を持ち歩いて小まめに走るようにしているが、やはり冬はデメリットが多い。季節による対応は重要な要素で、ある程度継続的に(データを)とっていくことが大事。プローブ(探査機)パーソン調査のように、少数の人を GPS などで継続して追っていくようなこと。(視聴率調査のようなイメージ)
- ・國定市長
具体的な指示、オーダーをいただければ受けたいと思う。

- ・久野議長
調査の具体化については、このメンバーで東京でも打ち合わせをさせていただく。それを持って再度、市長に入っていただくという形が良いのかなと考えている。
- ・羽藤委員
三条小学校区以外の地区はどう考えているのか。
- ・久野議長
コントロール（比較）としては、（データを）とっておかないといけないのかなと思う。
動かない地区。
- ・國定市長
構わない。マンパワーの限度はあるかも知れないが、基本的には、この知的支援基盤の下請組織として仕事をさせていただくつもり。
- ・久野議長
コントロール（比較）としては、商店街を持っている他の地区。
- ・國定市長
一ノ木戸地区。生活特性は、ほとんど変わらない。
- ・羽藤委員
同じ地区の中で条件が違うエリアとか。
- ・國定市長
三条小学校区内にはないと思う。例えばどの位の違い？
- ・羽藤委員
バス停からの距離、郊外型ショッピングセンターの近さとか。
ここは意外と郊外に車で買い物に行っている人が多いのでは。アンケートの対象はこの地区内の人で良いとしても、情報としては、地区外の生活空間やサービスの情報と、地区内の情報が比較（普段どこに出かけているのか）できるようにしておくことが大事。
- ・松原委員
三条小学校区で施策をやってどうなったか、ということと何もやらなかった所との比較もする？
- ・久野議長
本当は、前後と地区との両面で比較できるのが良い。
- ・國定市長
三条小学校区と他の校区での比較ができるかということか。（四日町か、一ノ木戸か）
- ・久野議長
例えば、（SWCに取り組む）他市の似たような地区とのコントロールもあり得る。（豊岡市とか）
- ・羽藤委員
この区域への投資が、コンテンツ次第では、他の地区から来て車を止めて中に入るといふことにもなると、全体で3,000位とるなら、その10%は、他の地区からとっても良いのかなとは思ふ。（マスタープランの参考にもなる。）
- ・久野議長
人数規模やマンパワー、予算も併せて詳細は検討課題とさせていただく。

【歩いて暮らせるまちづくりに関する世論調査について（松原委員）】

*詳細は別添資料のとおり
(要旨のみ)

- ・プローブパーソン調査について、可能であれば三条市も取り入れてはどうかということ

で紹介する。

- ・徒歩や自転車で行ける範囲に必要となる施設は、年代によって異なる。
- ・歩いていける距離は 500 メートル。(せいぜい 1,000 メートル) 従って、土地利用や施設(配置)をあわせて考えないと、人は出てこない。
- ・郊外に行かなくても、まちの中(自宅周辺)で歩いて生活できる空間を造っていく。
- ・まちの中に、車ではなく公共交通で行くと、滞在する時間が 1.5 倍位長くなる。
- ・アンケート調査とプローブパーソン調査の 2 つを実施。
- ・アンケート調査から、65 歳未満は、目的地までの最短距離で歩くルートを決めるが、75 歳以上は道路の凸凹や段差、傾斜など、安全性の条件で決める傾向がある。
- ・歩く要件は、65 歳未満は経済性、75 歳以上は安全性、景観を重視している。
- ・プローブパーソン調査からは、(身に着けた機器で把握する) 移動経路から、歩く目的、や理由までわかる。
- ・つぶやき機能で道路環境などの評価も可能である。
- ・高齢者にとって、道路舗装材による衝撃、すべりの影響は大きい。

【本日のまとめ】

- ・谷口委員

モビリティマネジメント(車の(社会的な)問題を緩和するために、ハード、ソフト、コミュニケーションなどを通じて、車をより賢く使うこと)で大事なのはターゲットを絞ること。そのうえでセグメントごとに、この人にはこの情報が必要というようにしていく。

中心市街地に関しても、交通面だけでは解決しない。魅力ある商品が重要。郊外に行つて何が悪いのという人がいる。その意識をどう変えていくか。郊外で買い物すると、多くのお金は地域の外に流れていく、といった情報もキチンと知らせること。そして、健康を前面に出すだけでなく、歩いて楽しい商店街にしていけることが重要。

実は、車は、所有しているだけで 1 日 1,800 から 2,000 円のコストがかかっている。(燃料、税金、保険、駐車場など。購入費は別 *東京ベース)

- ・羽藤委員

情報システムについても考えている？

- ・國定市長

同一人物で国保加入者、介護サービス利用者の場合、今回の取り組みの結果、その人がどう変動したのか見たいと思っても、名寄せができないのが現状。やはり名寄せの仕組みがあった方が良くとなれば、その用意はありますということ。要するに評価システム。

- ・羽藤委員

プローブパーソン調査は、プライバシーに入らざるを得ない調査で、そのことで公共の福祉が実現するという面がある。健康、医療、福祉は、個人のプライバシーや病歴、普段の人付き合い等も合わせて継続的に見ていくことになるので、そこには人が介在していく事が大事。今回そこまで踏み込むなら、おもしろいと思う。

なぜ商店街で買わないのか。郊外店は匿名性が保たれるということがある。でも、人と人とのつながりを求めて外出する高齢者は多い。ペットも話しかけるきっかけになりやすいといったポジティブなフィードバックがある。ソーシャルキャピタルをプログラムに組み込んで、ウォークラリーに参加しましょう！から、一步踏み込んで、日常の人間関係の下敷きとなるようなデザイン、場の空間設計、そこに若干のアドバイスや気づきがあると

いう、やわらかいまちの提案。今日の会議から、三条市のレベルは高いと感じた。地に足のついた良いまちになると思う。

・川中委員

専門外ではあったが、大変おもしろく聴かせてもらった。新潟に住んでいる人間として、11月から2月まで天候が悪いという事をどう乗り切るかが大きなファクター。私も走っているが、なかなか走る場所がない。今は、みなとトンネルを走っている。(1.3キロ)歩道が分離されていて明るい。絵やBGMもある。ジョガーや散歩する人が多い。

・國定市長

そういう意味では、ここは(弥彦線)高架下がある。(逆にここくらいかもしれない。)

・久野議長

全てが外を歩くことで解決はしない。室内での健康運動教室もあるわけで、いくつかのトライアルを動かして行って、最終的にかなりの市民が健康になるという社会技術を具体化していくということ。

・羽藤委員

三条市の人間関係の感覚はどのような感じ？

・國定市長

三条は、ほどほど都会でほどほど田舎だと思っているが、私から見ると信じられないくらい濃厚な人間関係がある。顔が見える。それは動きにくい場合も含めて。輻輳している。

・谷口委員

運動は毎日しないといけない？ 1万歩/日と言うが。

・久野議長

今のエビデンスでは、1週間単位で考えても良い。(ある程度の歩きだめが可能)やった期間と同じ分やらない期間があると元に戻ってしまう。この繰り返しが良くない。人間が(続けることが)嫌になってしまうパターン。

昔と比べて寿命が長いため、体の機能が落ちても死なない。その分、寝たきりの期間が長くなる状況が辛い。

・國定市長

今日は多くの気づきをいただいた。これから三条のまちを知るうえで必要なデータや、ここはどうなっているのかといった疑問は、どうか遠慮せずお聞きいただきたい。折角的支援基盤である。3年スパンで末永くよろしくお願ひしたい。

終了